



野生の「鳥」がもっていたものでそれが変化して人間に感染するようになったのだそうです。ですから「鳥インフルエンザ」

今年も、インフルエンザが流行る季節ですが、原稿を書いている2月12日時点では、神奈川県全域の中で、中区だけは、流行を免れているのです。中区に何か秘密があるのか？ と不思議に思っている今日この頃です。「鳥インフルエンザが人にうつる…」ということが突然降ってわいたようにいわれるのですが、現在人間に感染するインフルエンザウイルスも、元をたどると「全て」カモ、アヒル、カモメなど

すべでは鳥から始まった



インフルエンザの科学



あなたが作るかわらばん

「かわらばん空」も次号で50号の節目を迎えます。そこで、ささやかですが、紙面のリニューアルを考えています。以下の記事を書いてくださる方を募集しております。このかわらばんの読者であればどなたでもどうぞ。ふるって、ご一報ください。一回だけでも大歓迎！匿名・ペンネームも大歓迎です。

4こま漫画 詰め将棋、碁次の一手 ミニスケッチ（寿や周辺、遠くの景色） 旅行記事（どこか旅へ行った方の話） 耳寄りな話（小耳にはさんだり実体験した伝えたい話、くすっと笑った話、自慢話など） 介護の話（介護されて、介護しての感想など） 病院の話（通院して、退院しての感想など） 短編小説、随筆、詩 俳句、短歌、川柳 かわらばんを読んだの感想 など

「インフルエンザが人にうつる」ようになるという話は、今に始まったことではなく、想定内のことなのです。インフルエンザウイルスは、車と同様に毎年「マイナーチェンジ」をするのですが、それが、数

発行	ことぶきいりょうはんつうしんしゃ 寿医療班通信社
横浜市中央区松影町 3-11-2-402 NPO 法人訪問看護ステーション コスモス寿気付	
発行日 2006年2月19日	
第 49号	

十年単位で突然大きく「フルモデルチェンジ」をする時があります。この「フルモデルチェンジ」したものに対しては、人にはまだ免疫がないため大流行を引き起こし、大きな被害を及ぼすのです。最近?の「フルモデルチェンジ」は1918年のスペインかぜ(H1N1型)、1957年のアジアかぜ(H2N2型)、1968年の香港かぜ(H3N2型)、1977年のソ連かぜ(H1N1型)におおじており、以後しばしば起こっておりません。現在、アジア、トルコ、アフリカなどで時々死者がでている鳥インフルエンザは今まで流行っていないかった「H5N1型」といっ新型で

す。これに対しては、まだ、人は免疫を持っていないため、大流行すれば大きな被害を及ぼすのではといわれています。このため、現在のところ特效薬である「タミフル」を蓄えたり(2年後には国内で製造する計画もあるそうです)、ワクチンを作る準備をしながら、世界規模で警戒を強めている状態です。

では、私たちがすぐにはできないこととはいえ、「手洗い」「うがい」「マスク」といった当たり前のことをするといっことぐらいいのです。時代が進んでも、案外基本的なことは変わらないのですね。 【どぶき共同診療所医師 鈴木伸】